

IV. 長期的な課題

(1) シカ被害等の把握(モニタリング等)

天然林及び人工林でのシカによる下層植生や枝葉や樹皮への食害等の森林被害について、地表面の土砂流出の一因となる樹高の低い木や樹木以外の植物も含め状況に応じてモニタリング等による調査を検討します。

(2) 森づくりの長期ビジョン

森林法に規定された計画期間(10年間)を超える森づくりの長期ビジョンについては、今後の森林経営管理制度の運用状況を含め、今後の森林整備の状況を踏まえながら検討します。

(3) 木材利用のあり方、民間施設の木質化支援制度

公共施設整備のほか、民間施設における木材利用の普及啓発のあり方について、国や県の施策動向を見つづ検討します。

(4) 森林ビジネス、木育ビジネス

メンタルヘルス対策や健康づくりの場などとして森林空間を利用するという新たなニーズを捉え、地域の森林空間を活用することにより、新たな雇用と収入機会を生み出す「森林サービス産業」の可能性を検討します。

(5) 里山林利用再生の取組

広葉樹林の薪生産の場としての復活、天然林や竹林における生産物の活用など、森林と生活・生産をつなげるような取組については、市民の生活スタイルの変化も必要なことから、長期的に検討します。

(6) 学校林の活用

環境の整備及び環境学習の推進を目的とする学校林については、一部でPTA等と連携し草刈りやシイタケ栽培等の体験活動を行っています。一方で、整備や活用が行われていない森林もあり、PTAや地域の人材及び施設等と連携して、今後の活用を検討します。

(7) 所有者不明森林への対応の検討

森林経営管理制度の運用に伴い増加が懸念される所有者不明の森林や市による経営管理ができない森林への対応については、同制度の運用状況を踏まえながら検討します。